

環境調査結果のお知らせ

平成21年9月25日
中央漁業指導所・水産試験場

平成21年9月25日午前10時から浦ノ内湾の環境調査をしましたので、結果をお知らせします。

概況

湾内の水温・塩分・溶存酸素濃度ともに安定して推移しており、養殖漁場周辺の溶存酸素濃度もほとんど回復しました。湾内には弱い密度成層が残っていますが、海水密度はほぼ均質になっていますので、これから湾内海水の上下混合は更に進むと考えられます。湾内のプランクトン量は少なく、湾内全域で透明度は4~5mとなっています。海水温はまだ27℃より高い状態が続いています。無理な投餌を控えるなど適切な養殖管理を行ってください。

溶存酸素

溶存酸素濃度は2.6~8.0mg/lでした。養殖漁場周辺の表層から水深10m層までの溶存酸素濃度は6~8mg/l（酸素飽和度で80~120%）になっています。底層の酸素濃度も湾口側から目の糞付近まで回復していますが、湾奥部の底層では3mg/l以下の低酸素水が少し残っています。（表1・表2）。

水温

水温は26.6~27.9℃でした。前回調査（平成21年9月15日）に比べると湾内の平均水温は1℃ほど下がり、最高水温も27.9℃になっています。また、各調査点での上下層間の水温差も0.4~1.2℃まで小さくなっています（表3）。

塩分

湾内の塩分は32.10~33.16でした。湾内の塩分は、水平的にも、鉛直的にも変化幅は小さくなっていますが、表層から5m層の塩分が底層に比べて少し低いため、弱い密度成層が形成されているように見受けられます（表4）。

プランクトン

湾内全域の透明度が4~5mあり、プランクトン量は全般に少なめです。光松でのプランクトン組成は、珪藻類（レプトシリンダラス、スケレトネーマ類、キートセロス類など）が優占し、シャットネラ類等の有害種は観測されませんでした。ただ、2m層でケラチウム・フルカが16cells/ml出現しています。本種は魚類に対しては基本的に無害種ですが、本年6月には湾奥部で赤潮状態まで増殖していますので、今後の動向に注意してください。

湾内で赤潮による着色は見られませんが、引き続き、海面の変化などに注意してください。海の状態や養殖魚の状態に不安を感じたときは、良く洗ったペットボトルに海水を汲んで、水産試験場か中央漁業指導所まで連絡してください。



「環境調査結果のお知らせ」は下記URLでもご覧いただけます。
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/040409/akashiojoho.html>

